msn ジャーナル
msn ショッピング
センスのよいライフ作りを。
Web 検索
ローンカードを ローン!
金利で差ついてますか?
金利下げ止まらずインフレ下ローンカード 年末年始も、7.5～12.6%【JA金庫、年会費無料】

ナビゲーションバー
ニュース
トピックス
ジャーナル

最新情報
・相互直通開式、参列者定員は自分
・

サンスポ&タブロイド
・イチロー、ドリーム！ 巨人のエースで大絶賛（サンスポ）

日刊スポーツ
・巨人松井150M弾！東海ケニア3発

AFP-時事
・ユナイテッド航空ちゃぶ台の破産法申請を準備

ジャーナル
・「1年で原日」第1回・ポスター動物の日の

明治安田生命 最大10万円 ローン
【大 海 原】 最大10万円！金額は1,000万円！金額ならなんとJA万円！

2006 SOCCER WORLD CUP ドイツワールドカップ
「金持ちスタルハ」ずっと、チャンスを探し！？の秘密とは！

言葉たき動物の代弁者――アメリカの動物擁護団体の活動から (3)

2002年8月14日
吉田 朱見

ペットブームの一方で動物虐待のニュースも後を絶たない。動物愛護運動が日本より早い時期から定着したアメリカでは？ボランティアの活動ぶりをのぞいてみました。

前回の記事
・言葉たき動物の代弁者――アメリカの動物擁護団体の活動から (2)（6月12日）

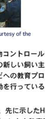
強い目ざし が照りつける真夏のニューヨーク。古い家々がひしめくようにたつ古ぼけた、市街地のあるあたりにはアパートからさかんに大の泣き声がする。雪官によく似た身なりのオフィサー達が裏庭に通じる狭い出入り口を現させ出と、数匹の大ぶち犬が入り口を塞ぐ金網の間から鼻を突き出すようにしている。どの犬も痩せ細り、体の大部分のひふは赤くただれている。ほとんどの犬はうずくまっていて動いて、金網で遮られ、裏庭にいようは、胸高鼻を補ふ1ヶ月ぐらの相応いしような家の裏は、照り返しのついたコンクリートが一面にしかれ、水もえさも見たらない、どれくらいの間、このような状態で放っておかれたのか、特に中の1匹は重傷の実験に使われたご、この家主は、再三の警告を受し、てきた。にも関わらず、彼のペット全体が過剰に太りすぎで、ひふの異常とそれていない、と、その時、裏戸が開いて、家主が顔を出す。いつにも増して憎々し気な態度で、オフィサー達に向かって罵声に近いものを浴びせる。自分の犬だ、俺がどう扱おうと俺の勝手だ、という、オフィサー（仮官）達は彼を連獅子を時が来た思った。抵抗だけを繰り返す中に手錠をかけられ、パトロールカーで連れ去られた。残された犬は連れ注意深く保護されて別のパンでASPCAに送られた後、手当てを受けることになった・・・。

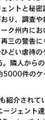
少なくとも一度でもペットを飼ったことのある方なら、この話を聞いて、家主に対し“ざまみろ、天罰だ”と思われるかただろうか。

●逮捕権も持つHLEエージェント

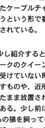
先の実主は、動物放置の罪で逮捕された。この逮捕を遂行したのは、ASPCAのHumane Law Enforcement、日本語にすると“動物愛護法遂行オフィサー”といった感じになるかも。HLEと呼ばれるエージェントである。

ASPCAはアメリカで最も長い歴史をもつ動物愛護団体で、設立以来、動物に対する虐待、放置を取り締まり、保護に努めてきた。ニューヨークで最初の動物虐待に対する法律が施行されたのも、同団体の働きがきっかけで大きく影響している。


▲HLEエージェント達（Courtesy of the ASPCA）

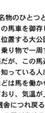

▲調査を進めるHLEエージェント（Courtesy of the ASPCA）

現在、巨大な組織に成長したASPCAは、動物コントロールセンター教育課、ペットのアダプション（捨て犬・猫などの新しい飼い主をさがす）課、動物病院など、様々な課を抱え、中学校など、地域ぐるみの教育プログラム、シェルター経営、法律への働きかけなど、多くの活動を行っている。

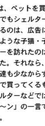

▲保護された動物（Courtesy of the ASPCA）

その中の一つが、先に示したHLEの活動である。制服のエージェントと秘密調査などを行う私服エージェントがおり、調査や捕獲活動などを主に行う。ニューヨーク州内においては、逮捕件も与えられており、再三の警告にも関わらずそれを無視したケースやひどい虐待のケースなどにおいては、ためらうことなく、犯人逮捕に踏み切る。捕入後の法廷や他の動物愛護団体からの情報によるケースが全て、年に約5000件のケースを扱い、逮捕者は約300人に上る。

なんと、このHLEの活動はテレビシリーズでも紹介されていて、動物ものを主体としたケーブルチャンネルであるAnimal Planetで、エージェント達の日々の活動をカメラが追ういろ形で番組を構成し、“Animal Precinct”というタイトルでシリーズ化されている。


▲保護された動物（Courtesy of the ASPCA）

内容を少し紹介すると、最近のものでは、ニューヨークのクイーンズ区にある既食で、適当な扱いを受けていない馬の調査を行い、救出作戦に乗り出すものや、近所からの通報で、目と足にケガをしたまま放置されていた犬の保護するように、うちのがある。少し前になると、小さなアパートに56匹もの猫を飼っていた女性のとこに警告を発したり、ルームメイトが子犬の足を折ってしまったとの連絡を受け、同宅に向かって対処に及んだりの、まこプロンクス歴で不法に賭博が行われていると情報のもとを、その調査に向かい、不法に扱われている鶏などを見たとケースもあった。破棄されたパスに住んでいる男性が、寝しっきりから、捨てペや猫を多量にパスの中に連れ込み生活しているケースがあったが、オフィサー達の深げな、中の数匹をシェルターに引き取ることになった。連捕権を与えられているからといって、力づくで動物を連れ去るというような方法は使わず、説得を重ねて、犯人に対し、出来る限り穏やかな方法が行われるようだ。


▲虐待を受けていた馬を保護するエージェント（Courtesy of the ASPCA）

ニューヨークの名物のひとつともなっている、セントラルパークの馬車業者にだろうか？ マンハッタン中央に位置する大公園、セントラルパークを馬が引く乗り物で一周するという、特に観光客相手の商売だが、この馬達にもHLEの目が光っていることを知っている人は少ないのもしれない。暑い夏場だとは馬を乗かせていい温度がちゃんと決まっており、気温が上がってくると、エージェント達はこれらの馬をチェックし、調査につれ戻ることを馬主達に促したりしている。驚きやすい動物といわれている馬が突然ラッシュのように車が行き来するマンハッタンの公道を、馬車を引いてかわせなければならないのは、何とも気の毒な感じがするが、こうした法の目が行き届いているだけでも、良いあるようにもみえる。

●ペットをただでくれるなんて、そんなうまい話があるか？

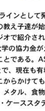
ASPCAは、宿無しになった動物達のシェルターを持ち、ただでペットを譲ってくれる機関として人々に知られている。もちろんペット引き取りを希望する人達への事前調査は厳しいが、普通に生活していると認められれば、希望になるだけ近い動物を譲ってもらえる。前記事にも記したが、それでもシェルターにいる動物が新しい飼い主に引き取られる確率は非常に低く、現状はシェルターに大量の猫されている状態だ。そのため、電車の中や新聞・雑誌などに、ペット無料提供の広告などを載せているが、それでも問題は解決されていない。

筆者がニューヨークに来たばかりのころ、とりえは陸分首になるが、その時からずでにこうした広告は各所で目にはまった。おはずかしい話だが、日本から来たばかりの筆者は、ペットはペットショップで お金を出して買ってくるものと信じて疑わなかった。だから、そうした広告を最初に見た時は、ペットを無料でくれるなんてそんなうまい話があるわけないと、何か裏があるのでは と、変に気をまわしたりしたものだ。そうした広告には、ほんとうにかわいい、純潔種の大半種の写真が張り付いているものから、雑い出種にたどりうるものある。

最近では、ペットを買うのならシェルターへ、という考え方が頭の中にある の、一度でもシェルターを訪れたことがある人なら、ご存じと思うが、シェルターにいるのは、広告に出てくるような純潔種の、しかも生まれたばかりかと思われるような子猫・子犬ばかりではない。ペットをもらおうと意気揚々とシェルターを訪れたのはいいが、見るからと結局、自分の経験にかなうものがいなかった、それなら、多少お金を出してでも、ペットショップに向かってしまう人達も少なからずいるだろう。日本では、今でもやはりペットはペットショップで買ってくるものなのだろうが、ペットを欲しがっている知り合いに、シェルターなどではもらえないのかという話をしたことこそ、「もらうなんて、イヤーン」の一言で片付けられ、たいへんに思い込い思いをしたことがあったが・・・。

●両物からペットを守る。あなたはどこまで知っているか？

同団体の重要なひとつの課に毒物コントロールセンターがあることは、動物を危険な毒物から守るための活動が行われており、人々の教育プログラムやリサーチを含め、24時間体制で、設物や動物の指示を行っている。この中学の専門家達が動務していることはいうまでもない。


▲（Courtesy of the ASPCA）

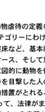
同センターは1978年に、動物の毒物ホットラインとして発足された。その道の権威とされたイリノイ大学の獣医学教授の戦え子達が始めたもので、当時は無料相談を行っていた。この電話番号がラジオで紹介されると中継や、全米から電話がかかるようになったが、1日に大半の活動力を奪がうようなことは、相談が有料になってしまったのは悲しいことである。ASPCAの大学からのセンターを取得したのは、1996年のことで、現在も有料相談となっていが、無料回線を設置してあるため、全米どこからかけても電話代はかからないは結ぶ。ここには、殺虫剤や肥料、植物、メタル、食物に含まれるその他の物質に関して、50万件にもたる広大な資料・ケーススタディなどが納められているというから驚きである。

同団体によれば、我々が普通に住んでいる家の中にも、ペットに有害になるものは少なくないという。しかもペットは、その問題は本質的に、そのペットが、おもちゃになるものをさがして遊んでしまうので、それらがペットに有害になりえるケースも多いのだそうだ。以下、少々マニアックなものになってしまうが、同団体が提供している毒物に関する情報を紹介しておく。ペットのある人には多少の参考にしてもらえるだろう。

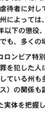
▲（Courtesy of the ASPCA）

例えば、クリスマス時などには、ペットへの危険が高まる。というのは、パーティなどから食べ物、家屋が壊されるの、アルコール飲料やコーヒー、チョココート、たまねぎ、イースト菌の入ったもの、マカデミアンナッツ、レーズンやぶどうなど、有害となるものが、ペットの前にさらされる機会が増えるためである。また、アメリカではクリスマスの時に以り利の植物を季節ものとして好んで飾ることが多いが、ユリ科の多くの植物は国にとっては致命的な毒物で、腎臓欠陥を起こして死に至るケースがある。また、クリスマスにかかせない鉢り物、ヤドリギ（Mistletoe）の小粒は、その下にいる女性に異性はキスをしてもよいという言い伝えのあるロマンチックなものだが、ペットにとっては観自質病を起こす危険な植物である。

また、日本では、人工のクリスマスツリーを使うことが多いが、アメリカでは本物の木が12月一斉に売り出され、これを家中に持ち込む家庭も少なくない。これをシーズンやたらるのに、当然下に木を入れることになるが、問題はこのあである。化学肥料が含まれている場合が多いので、うっかりペットがこの木を飲むとたいへんなことになる。


▲（Courtesy of the ASPCA）

車に乗る方なら、不凍液を ご存じだろう。どうにこれ動物にとって同じくらいしいものらしい。が、小さい子ほどいうタ皿でも、舐ほおう、4000グラム級の大型車に乗ってしまう、間違って飲むだろ。一刻を争う一大事である。芳香剤として使われるポプリの液体も、口の中や皮膚、視覚に大きなダメージを与える危険物である。


▲ニューヨークASPCA本部（Courtesy of the ASPCA）

ASPCAでは、動物虐待の定義を“故意”“意図的虐待”の2つのカテゴリーにわけている。故意とは、えさや水、寝床など、基本的な物質を飼い主が故意しているケース、そして意図的虐待とは読んで字の通り、意図的に動物を傷つける場合である。そして、虐待を目撃した人の多くは、虐待を止めるための法的措置がとれることを未だ知らないでいる。ここで、混乱を招くのは、所にとって、法律がまちまちであるということである。“動物虐待”が何を意味するのかという定義がまだ曖昧（あいまい）であるためだ。

前述のように、ASPCAでは、多くの虐待者を逮捕している。にも関わらず、こうした虐待者に対して、法律が十分に作用していないというのが、同団体の見方だ。州によっては、どんなひどい動物虐待に対しても軽罪が適応されだけで、1年以下の懲役、1000ドル以下の罰金というものである。有罪判決が出た場合でも、多くの場合は執行猶予かつ。

現在、コロンビア特別区は330州で、動物虐待に対し重罪が適応される。こうした犯罪を犯した人に対して、懲役や罰金の他に、心理的変定ムクンセリングを課している所も多い。最近では、動物虐待とDV（ドメスティック・バイオレンス）の関係も調査結果に上ってきている。

こうした実体を把握した上で、我々の動物を連鎖している、にも関わらず、こうした虐待者に対して、法律が十分に作用していないというのが、同団体の見方だ。州によっては、どんなひどい動物虐待に対しても軽罪が適応されだけで、1年以下の懲役、1000ドル以下の罰金というものである。有罪判決が出た場合でも、多くの場合は執行猶予かつ。

現在、コロンビア特別区は330州で、動物虐待に対し重罪が適応される。こうした犯罪を犯した人に対して、懲役や罰金の他に、心理的変定ムクンセリングを課している所も多い。最近では、動物虐待とDV（ドメスティック・バイオレンス）の関係も調査結果に上ってきている。

ご意見・感想・質問・ご要望・ご相談・ご提案・ご情報・ご連絡・ご報告・ご紹介・ご案内・ご参加・ご参考・ご参照・ご参観・ご参詣・ご参拝・ご参上・ご参内・ご参謁・ご参賀